

# 琉球大学学術リポジトリ

## 家畜の寄生虫病とその対策

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡嘉敷, 綏宝, Tokashiki, Suiho メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21041">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21041</a>

# 家畜の寄生虫病とその対策

## 2 豚回虫症

豚回虫は豚の代表的な寄生虫である。人回虫と豚回虫の異同については完全には解決されていない。形態上は区別出来ないが、両者の感染試験では若干の相違があり、結局同種異株だとの考えが強いようである。

### (1) 寄生状況

日本における豚回虫の寄生は一般に30~40%といわれ割合高率である。沖縄においては家畜衛生試験場が豊見城、東風平、久米島、伊江島における調査(1963)によると190頭中15頭(7.8%)が感染し、那覇、石川、玉城、具志頭での感染率は10.1%であった。一方琉大畜産学科学学生安次嶺守明の北谷村における調査(1965)によると118頭中32頭(27%)が感染していた。

### (2) 発育および感染法

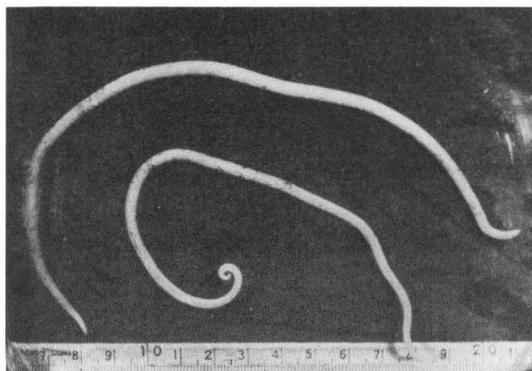
糞と共に排出された受精卵は夏季では約2週間で卵子内に仔虫を蔵するようになる。この含仔虫卵を野菜などと共に食う時、胃液により殻は消化されて仔虫が遊離し、そのまま腸内では発育しないで体内移行を営む。即ち仔虫は腸壁を貫通して主として血流によって肝臓、心臓を経て肺にいたり、さらに気管支を上行し、咽頭から食道を経て胃にもどり、小腸で発育して成虫となる。感染してから排卵するまでには8~9週を要する。豚回虫は多産で1匹の雌虫が1日に20万個の虫卵を排出するといわれる。

### (3) 症状

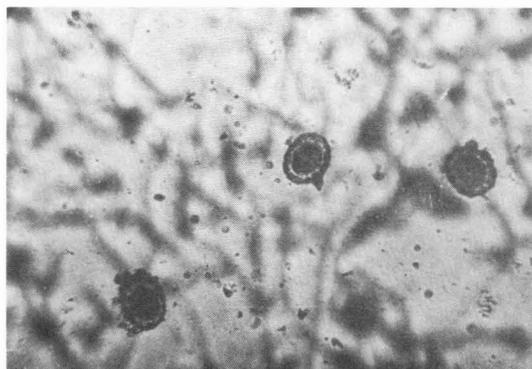
回虫の寄生は幼豚に多く、小腸に寄生してここで主として乳びを吸って生存する。回虫が多数寄生すれば栄養障害におちいり、被毛は光沢を失い、皮膚は乾燥する。食欲は始めは増進するが次第に減少し、土砂や壁土を好食する。

### (4) 診断

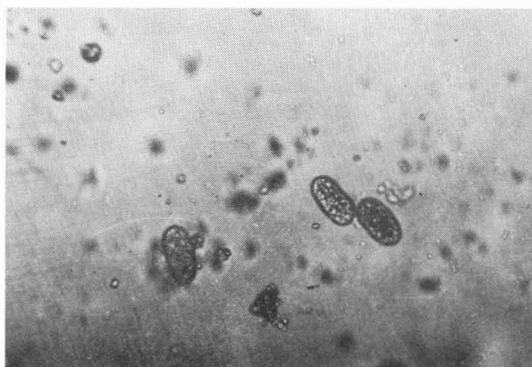
糞便検査によって虫卵を発見することである。回虫卵の特徴は卵殻の外表に黄褐色の蛋白膜を有することと、内容が1ヶの大きな卵細胞であることである。受精卵と未受精卵があるが、鑑別は容易である。



豚回虫。大きいのが雌で小さいのは雄



回虫卵(受精卵)



回虫卵(未受精卵)

## (5) 治療法

治療薬としてはピペラジン剤やアスカリケンがある。ピペラジン剤は副作用がなく、絶食も下痢も要せず、駆虫効果も高い。投与量は15 kg以下の子豚には体重1kg当り350~400 mg，成豚には200~250mgを1回飼料に混じて与えるだけでよい。

アスカリケン（弗化ソーダ）は体重1kg当り子豚75mg，成豚50mg宛，1日3回，2日間飼料に混じて与える。但し妊娠豚には使用しない方がよい。なお肉豚に仕立てる場合は生後2ヶ月前後で一応駆虫するとよい。

予防法としては豚舎をコンクリート張りとし，清掃して床面の乾燥を図り，回虫卵の発育を防止することである。

家畜の寄生虫の中，肝蛭と豚回虫について述べたのであるが，寄生虫病は一般に生命には別状がないため，農家の関心がうすく，駆虫も十分に行われない現状である。このため飼料は満足に与えてもいっこう肥らないということが多い。

結局健全な経営は健康な家畜からということになる。  
(渡嘉敷緩宝)

---

## 4 ページのつづき

ネピアグラスにはりん酸施用の効果があらわれてないが，試験例が何分にも少ないので，今後の追試の結果を待たなければならない。

とに角，一般の暖地型牧草に対して泥灰岩土壌においてもa当り0.5~1.0kgの過石を基肥として施用する事は初期成育に著しい効果がある。

本土の火山灰土壌においては基肥として過石を約6.3kg施用することをすすめているが，沖縄本島の国頭礫層土壌もこれと同じ位の過石の施肥が必要と考えられる。

NとK<sub>2</sub>Oは基肥としてa当り硫安3kg，塩加1kg位を整地の際に施肥すればよいと考える。

(島袋正雄・宮城常夫)